

学校紹介

二十一世紀を担う、たくましく心豊かな子どもを育成する学校経営の心と姿に学ぼう。

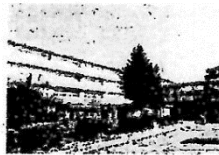
地域に生きる特色ある教育活動の推進

「盆栽教育」を通して、人と文化、心のつながりを広げる

さいたま市立植竹小学校

一 はじめに

本校は、さいたま市北区の南東に位置し、学区内には区役所や図書館、盆栽美術館や漫画会館などがあり、文化的にも恵まれた地域である。



校舎風景

開校は昭和二十六年、六十四年目を迎える。児童数は八〇一名、二十七学級。PTA活動も活発で、今年度は全国表彰も受けるほど熱心で協力的である。また、地域も学校に理解があり、教育活動の様々な場面で支援をいただいている。

二 学校経営方針

学校教育目標に「すすんで学ぶ子、たすけあう子、げんきな子」を掲げ、学校と家庭・地域が一体となって教育活動を進めている。特に今後の地域を支える人材を育成するため、学力の向上はもちろんのこと、地域の文化や行事を大切にすることを心豊かな児童の育成を心がけている。

三 「盆栽教育」の推進

本校の「盆栽教育」の開始は平成十八年で、今年で十年の節目を迎える。昭和四十年代頃、高学年が一人一鉢で盆栽を育てていたこともあったが、十年前に総合的な学習の時間として本格的に再開し、

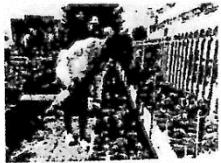
「ぼんさい遊々」のメンバーや本校の盆栽支援ボランティアのサポートを受けて完成させる。

まず、「真柏」の苗木の正面決めをした後、剪定をして形を整える。そして根をばくして切りそろえ、鉢に土を入れてコケを貼って完成。簡単なようで実に繊細な神経を使う作業である。子どもたちの表情は真剣そのもの、普段の授業ではあまり見られない目の輝きを見せる。

完成した後に書いた子どもたちの感想文には、「盆栽を下からながめて見ると、本当の大きい木のように見えてきました。今年のテーマ『未来にかがやけ 私たちの盆栽』と一緒に盆栽も自分も大きく成長していきたいと思います。」など、盆栽作りに取り組んだ子どもたちの心情が素直に表れていた。

(二) 盆栽庭園での世話

盆栽はその世話が結構難しい。ただ、その日々の世話を通して子どもたちの心を育むことができる。PTAの協力で「盆栽庭園」も整備され、学校の環境



盆栽の世話

「日本の文化を知ろう」、「探ろう世界、見つめよう日本」というテーマで、毎年「盆栽」を中心に調査活動や栽培・体験活動に取り組んでいる。盆栽を育てることを通して、地域の文化に誇りをもつとともに、世界の文化へも目を向ける学習を行っている。また現在、卒業生の

(四) 総合的な学習の時間

「日本の文化を知ろう」、「探ろう世界、見つめよう日本」というテーマで、毎年「盆栽」を中心に調査活動や栽培・体験活動に取り組んでいる。盆栽を育てることを通して、地域の文化に誇りをもつとともに、世界の文化へも目を向ける学習を行っている。また現在、卒業生の

(三) 盆栽教室の後の、五年生は学区内にある

は整えられている。業間休みになると当番が水道りをし、月に一度は盆栽の向きを変える。虫がついていないか、枯れていないか、自分の盆栽を気にしてみるの

(三) 盆栽教室の後の、五年生は学区内にある

五つの盆栽園のうち、いくつかの盆栽園と盆栽美術館を訪問し見学する。地域はどこに盆栽園があるのか、盆栽がどのように大事に育てられてきたのかを実際に一人一人の目で見て感じてくる。また、盆栽園では園主の方から盆栽を育てる喜びや苦労話を聞くこともある。また、盆栽美術館では大宮盆栽村の歴史や盆栽の見方などを学習する。これらの活動は、地域の文化を知り、本物の素晴らしさを



盆栽の観賞

有志で組織された「盆栽ジュニア」も地域で活躍し始めている。これらは、本会報の「ともに生きる知恵を磨き、心結ぶ未来社会をつくる 誇り高き子どもの育成」という特集題ともまさに重なる姿である。

四 保護者・地域と手を取り合って

地域の中で、地域の文化とともに子どもたちを育てていくことが大切である。地元盆栽園や「ぼんさい遊々」の皆さん、盆栽美術館や自治会の皆さんに加え、今年から卒業生の保護者を含めた「盆栽支援ボランティア」を組織し、子どもたちの活動を支える取組を始めることができた。盆栽が人と人とを結び、心と心を結び付けていくシンボルとなっている。

五 おわりに

先輩方の努力と十年という歴史により、植竹小学校と言え「盆栽」というイメージが定着している。今後も特色ある学校づくりとして、盆栽を核にして地域ぐるみで子どもたちを育てていきたい。

(文責 校長 鯨井 幹夫)



盆栽教室